



創立1880年

〒169-0051  
東京都新宿区西早稲田2-3-18  
日本キリスト教会館6階  
Tel 03-6302-1960  
URL http://tokyo.ymca.or.jp/  
発行所 公益財団法人  
東京YMCA  
発行人 菅谷 淳

# 東京YMCA 4/5

2018年

## 東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

# 夢の実現に向かって 「中期計画」最終年度スタート

## 2018年度重点計画について

公益財団法人東京YMCA総理事

菅谷 淳

2018年度は初日の4月1日がイースターという記念すべき日から始まりました。今年度は10年先を見据えた「第1期3カ年中期計画2016-2018」の最終年度ということもあり、残された各種計画を余すところなく実行に移すために年度の運営方針を策定いたしました。

### 1. 会員・コミュニティの充実

会員主体によるYMCA運動の拡充のため、新規会員の獲得、会員活動の見直しと活性化、会員の活躍する場としてのコミュニティセンターのさらなる充実を図ります。既存のコミュニティセンターをさまざまな角度から検証するとともに、新たなコミュニティ

センターを開設するために調査研究や準備に入ります。

### 3. 設備投資

老朽化している山手会館を全面的に改修し、一流のホテル専門学校に相応しい校舎、地域に開かれ、会員が気軽に立ち寄り、新しいコミュニティセンター作りに投資します。改修期間中は代替施設を利用いたいただく不便をおかけしますがご協力をお願いいたします。

### 4. 新規事業の開発

世田谷区に19年度、新しい認可保育園を開設することが決まりました。これまでの経験を活かして、YMCAらしい子育て支援事業の展開が期待されています。

### 5. 施設の拡充

ほかに、全国YMCAで進めているブランディング・プロジェクトを浸透させること、東日本大震災、熊本地震の被災者支援やさまざまな困難を抱える子ども達の支援のために寄付・募金活動を強化すること、にほんご学院やインターナショナルスクールを国際事業

### 6. 働き方改革と人材育成

また東京YMCAを端的に伝えることのできる「会員アクションブック」も完成し、会員増強ツールとしての活用が期待されています。

### 7. 新規事業の開発

山手の次は間もなく創立70周年を迎える江東センターです。学校法人東京YMCA学院と全面的に協力し、YMCAグループ全体としての将来構想を十分検証してから改修工事への準備を進めます。

### 8. 財政の健全化

山手の次は間もなく創立70周年を迎える江東センターです。学校法人東京YMCA学院と全面的に協力し、YMCAグループ全体としての将来構想を十分検証してから改修工事への準備を進めます。



改修工事を終えた東陽町センター。4月19日には1階「YMCAホール」(旧カフェテリア)で「Yわい歌の広場」が開催された。▼12面に関連

### 2. 働き方改革と人材育成

さまざまな業種、職種からなるYMCAをより魅力ある団体にするために働き方改革を進め、YMCAの大切な財産である人材を育成するために、良質な内外の研修を積極的に実施します。人生においてやりがいや生きがいをもつ大切さを伝えるYMCAであるからこそ、まず職員、そしてボランティアに関わる会員、ユースリーダーにや

りがいや生きがいをもつてYMCAに関わって欲しいと願います。YMCAが魅力ある団体となることで「YMCAで働きたい」、「YMCAでボランティアになりたい」、「会員になりたい」と思われるように改革を進めます。

山手の次は間もなく創立70周年を迎える江東センターです。学校法人東京YMCA学院と全面的に協力し、YMCAグループ全体としての将来構想を十分検証してから改修工事への準備を進めます。

が日常の活動の中で、「こんなことができないだろうか」「もっとこうなったらいいの」という発想からヒントが生まれます。全職員、全会員が新規事業開発者として自覚を持ち、斬新なアイデアを積極的に出していただければと思っています。

として位置づけ、在日外国人への支援を強化して行くことなどが運営方針に盛り込まれています。また会員・コミュニティ、学校教育、国際事業、野外教育事業、チャイルドケア事業、アフタースクール・世代間交流事業には事業責任者である統括職を置き、主任主事を監督して計画の進捗状況を把握し、アクションプランを適切に評価しながら前進する組織に改編しました。

今年度もみなさまと力を合わせて夢の実現である中期計画を力強く推進して行きたいと思っております。ご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

▼2面II重点計画より  
▼3面II事業活動一覧

## 2018年度運営方針

YMCAの理念を深く理解し、「若い命を豊かに育む」ための事業およびプログラムを積極的に展開する。

1. 中期計画最終年度の諸施策の実行  
中期計画で定められた諸施策を実行する。
2. 会員活動の活発化  
引き続きコミュニティセンターの充実に取り組み、より活発な会員活動を展開する。
3. 事業、プログラムのさらなる発展  
環境の変化に合わせ、各事業、プログラムを変革しさらに発展させる。
4. 新しい広報戦略の展開  
ブランディングを次のステップに進めるために東京YMCAの理念との関連性を再確認し、プログラムと連動させ、ストーリーを伝える形で「みつかる。つながる。よくなっていく。」を発信する新しい広報戦略を展開する。
5. 施設の拡充  
山手会館の耐震補強および改修工事を適正かつ円滑に行う。
6. 働き方改革と人材育成に注力  
さらに労働環境を整え、新卒採用・既卒採用・内部採用を行い、YMCAに必要な人材育成のために、きめ細やかな研修プログラムを企画、実施する。
7. 新規事業の開発  
社会の変化に対応する新たな活動、事業に挑戦する。
8. 財政の健全化  
引き続き、事業の持続可能性を高めるために財政の健全化に取り組む。

## 赤三角

今年度は2016〜2018中期計画の最終年度であり、また1月に本部が東陽町から西早稲田に移転して迎える最初の年です。さらに昨年10月には、新しいYMCAブランディング戦略と日本YMCA中期計画が同盟から発表されスタートしました。これを東京YMCAとしてどう消化し具現化していくかが大きな課題でしょう。国内YMCAのロゴマークが統一されたことは非常に意義あることですが、ブランドというものは、実績の積み重ねで生まれると私は考えています。新しいロゴマークが社会に一朝一夕で浸透するものではありません。ブランドを再生し、根付かせるには中期計画で掲げられた諸施策の遂行と共に、社会のニーズに応えられる質の高い活動を職員・会員一体となって展開、地道に継続する必要があることは言うまでもありません。

▼YMCAの理念は、いかに時代が変化しようとも決して変わるものではありません。しかし時代や社会の変革の中でその働きの在り方、活動方法は絶えず問い直され、新しい課題にも取り組んで行かなくてはなりません。理念に共感し、同じ志を持つ仲間を増やし、何としてもYMCA運動を広げたいものです。(理事 宮内友彌)



# 2018年度事業・活動一覧

# このような事業に取り組みます

東京YMCAは定款に定めた目的を達成するため、以下の事業・活動を実施します。

## (1) 教育、スポーツ等



教育、スポーツ等を通じて人々の心身の健全な発達に寄与し、又は豊かな人間性を涵養することを目的とする事業

- a. 子どもの体育活動
- b. 成人の健康増進プログラム
- c. 通信制高校サポート校

## (2) 子育て支援



乳幼児・児童又は青少年の健全な育成と子育て支援を目的とする事業

- a. 乳幼児保育事業
- b. 地域の子育て支援
- c. 児童館・学童保育の運営

## (3) 職業教育



職業教育を通して勤労者の就労支援や福祉の向上を目的とする事業

- a. 国際ホテル専門学校 (ホテリ育成)
- b. 社会体育・保育専門学校 (社会体育ならびに保育従事者の育成)
- c. 医療福祉専門学校 \*学校法人東京YMCA学院 (介護福祉士、作業療法士養成)

## (4) 国際協力、国際交流



国際相互理解教育や国際協力を促進し、国際交流のコミュニケーション能力育成を目的とする事業

- a. 語学教育
- b. インターナショナルスクール (TYIS)
- c. 海外YMCAとのパートナーシップ事業 (NYフロストパレー、バングラデシュ、北京、ソウル)
- d. 国際交流 (海外キャンプ等)
- e. にほんご学院の運営

## (5) 生涯教育



生涯教育の場を提供し、豊かな学びと教養を得ることを目的とする事業

- a. 青少年の居場所「オープンスペースliby (リビー)」の運営

## (6) 地域プログラム



地域社会の健全な発展を目的とする事業

- a. 行政との協働事業 (指定管理等)
- b. 地域の一員としての活動
- c. 会員などによる地域奉仕・交流活動
- d. 各種基金や募金の強化

## (7) 社会奉仕活動



社会奉仕活動の実施を目的とする事業

- a. 市民講座などの実施
- b. ボランティア活動の推進
- c. 他のNPO団体などへの施設提供
- d. 震災復興支援プログラムの継続

## (8) 障がい者・高齢者



障がい者、及び高齢者の健康や福祉を推進することを目的とする事業

- a. 障がい者プログラム
- b. 高齢者介護予防プログラム
- c. 発達障がい児プログラム
- d. 放課後等デイサービス (児童福祉法に基づく障がい児通所支援事業)

## (9) 野外教育



自然環境の中で、野外・環境教育を伴う宿泊体験学習と余暇を豊かなものとするを目的とする事業

- a. 山中湖センター
- b. 野尻キャンプ

## 2018年度会員活動



東京YMCAは、上記の事業・活動のほか、会員有志の企画・運営でさまざまな地域奉仕活動を行なっています。バザー、チャリティーイベント、お祭り、各種講座・講演会など、昨年は27種類、100以上のプログラムを開催しました。会員に限らずどなたでもご参加いただけます。ぜひご予約ください。

【問合せ】会員部 tel.03-6278-9071

### 【2018年度 主な会員活動 (予定)】

- ・8月25日 夏まつり (東陽町センター)
- ・9月 1日 災害スタディ
- ・9月15日 国際協力街頭募金 (新宿駅周辺)
- ・9月23日 インターナショナル・チャリティーラン
- ・10月8日 会員ソフトボール大会
- ・10月13日 神田川船の会
- ・10~11月 バザー (各センターで開催)
- ・11月23日 江戸城ファミリーウォーク
- ・11月24日 ソシアス2018 (会員協議会)
- ・11月~12月 クリスマス会 (各センターで開催)
- ・12月23日 東陽町クリスマスチャリティープログラム
- ・1月予定 子育て講演会

### 【月例プログラム】

- ・早天祈禱会/毎月1日 (原則)
  - ・WHO (ワーキングホリデーオギクボ) /月1回
  - ・中国語聖書に親しむ会/第2火
  - ・歌の広場/各地で月1回程度開催
  - ・わくわく科学実験室/第3土
  - ・のどトレ教室/第2火
  - ・音訳ボランティア「シジウカラ」/第1・3水
  - ・午餐会/月1回
  - ・下町こどもダイニング/第3月
  - ・おもちゃ病院/第4木
- ほか多数



詳細は、本紙および「東京YMCAメールマガジン」でお知らせします。メルマガ登録は ⇒<http://tokyo.ymca.or.jp/about/mailmagazine.html>

## 東京YMCA部署一覧

### 【語学教育・国際】

- ・東陽町語学教育センター (キッズ英語・英語幼児園)
- ・国際協力部
- ・インターナショナルスクール (TYIS)

### 【保育・幼児教育】

- ・江東YMCA幼稚園
- ・チャイルドケアセンター
- ・YMCAキャナルコート保育園
- ・YMCAオリブ保育園
- ・しののめYMCAこども園
- ・江東区東雲児童館・学童クラブ
- ・江東区東雲第二学童クラブ
- ・江東区東雲第三学童クラブ
- ・港区立芝浦アイランドこども園

- ・港区立芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ学童クラブ
- ・港区芝浦学童クラブ

### 【学校・職業教育】

- ・国際ホテル専門学校
- ・社会体育・保育専門学校
- ・医療福祉専門学校
- ・にほんご学院
- ・高等学院 (通信制高校)

### 【地域センター・その他】

- ・江東コミュニティセンター
- ・山手コミュニティセンター
- ・西東京コミュニティセンター
- ・南コミュニティセンター
- ・東陽町コミュニティセンター

### 【ウエルネス東陽町】

- ・東雲コミュニティセンター
- ・会員部
- ・新しいオープンスペース"liby"
- ・山手学舎 (学生寮)
- ・グランチャ東雲 (江東区児童・高齢者総合施設)
- ・港区立芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ

### 【宿泊施設・キャンプ場】

- ・山中湖センター
- ・野尻キャンプ

### 【本部事務局/賛助会】

●詳細はホームページをご覧ください。  
<http://tokyo.ymca.or.jp/>

# 「震災を忘れない」 復興支援活動続く

東日本大震災から7年目を迎えた3月。東京YMCAは被災地の復興を願い、各地でプログラムを実施しました。

## ●福島キッズスキーキャンプ

「子どもを思いっきり外で遊ばせたい」との切なる声に応えようと、2015年に始めた「キッズスキーキャンプ」を今年も3月10日、星野リゾート猫魔スキー場（北塩原）で開催。小中学生40名が参加しました。福島では震災以降スキーをしたことのない児童が多く、今回も定員をはるかに上回る希望がありました。参加した子どもたちは、主催のぐんまYMCAのボランティアスタッフの指導で元気いっぱい滑走。協賛くださった日清製粉グループ、星野リゾート猫魔スキー場および募金をしてくださった皆さまに感謝します。



## ●のんびり親子リフレッシュキャンプ

三菱商事の協賛で震災直後から継続している「リフレッシュキャンプ」は2月10日～12日、39人の親子を迎えて開催。大雪の妙高高原ロッジで、かまくらや雪そり、善光寺バスツアー、館内での革工芸などを楽しみました。このキャンプは今期で累計73回実施、延べ参加者は2753人となりました。2018年度も3期にわたり開催予定です。

## ●揚がれ！希望の凧 (東京町田YMCA)

「私たちは被災地を忘れません」との思いをこめて凧を揚げる“揚がれ！希望の凧”。震災1周年からワイズメンズクラブと共催で続けているこのイベントを今年も3月11日、近隣のNPO法人や社会福祉協議会に協賛・後援をいただき、玉川学園こども広場で実施しました。

## ●復興支援 街頭募金

東日本大震災と熊本地震の復興支援のため各センターでは3月、会員や学生、メンバー、リーダー、ワイズメンズクラブ等YMCA関係者が各地の街頭に立ち、募金活動を行ないました。



◇山手コミュニティセンター  
3月11日／高田馬場駅前／50人  
／129,500円

◇南コミュニティセンター  
3月11日／経堂駅、田園調布駅／53人／84,815円

◇西東京コミュニティセンター  
3月14日／JR国立駅前／12人／30,531円

## 「下町こどもダイニング」スタート 子ども食堂で「孤食」を防ぐ



子どもの「孤食」をテーマとした子ども食堂「下町こどもダイニング」が、1月と3月の「お試し版」を経て4月16日(月)にスタートしました。会場は東陽町コミュニティセンター。子ども14人、保護者4人の参加者と8人の調理ボランティア、および東京YMCA社会体育・保育専門学校(学生ボランティア4人)で、楽しい食事の時間を過ごしました。「下町こどもダイニング」では食事の時間だけでなく、子どもたちと年齢の近い学生ボランティアが一緒に遊んだり、歌やゲームなどを一緒に楽しみました。食事を広げると、遊ぶ楽しさを広げると、最終的には家族と一緒に楽しい食事の時間がもてるようになることを目指しています。今年度は毎月1回、第3月曜日の17時から19時に開催します。(東陽町コミュニティセンター 木村卓司)

## 高石ともやさん コンサート バン格拉デシユ支援へ22年



高石ともやさん(左から3番目)と会員・スタッフたち

60年代から活動を続けるフォークシンガーである高石ともやさんが4月14日、日本キリスト教団浅草教会で「バン格拉デシユ奨学金コンサート」を開催。110人の来場者がありました。



鈴木雅博実行委員長から菅谷淳総主事へ益金贈呈

## ゴルフ参加で社会貢献

「第28回チャリティゴルフ大会」が4月12日、今年もレイクウッド総成カントリークラブ(成田市)で開催され、31組121人が参加しました。最高齢者は88歳。毎年楽しみに参加くださ

者が温かな「語りうた」に聞き入りました。高石さんは、故江幡玲子先生(思春期問題研究所元所長)の「人のために走りなさい」との言葉を機に

1997年から毎年このコンサートを開催。第22回となった今年も、益金15万円をバン格拉デシユYMCAの教育支援活動のために寄付いただきました。息の長いご支援と、来場者の皆さまに、心より感謝します。(国際部 戸坂昇子)

「第28回チャリティゴルフ大会」が4月12日、今年もレイクウッド総成カントリークラブ(成田市)で開催され、31組121人が参加しました。最高齢者は88歳。毎年楽しみに参加くださ

益金約50万円は、YMCAが行なう障がい児支援活動や被災地の子どもプログラム等に用いさせていただきます。また企業や個人から寄贈された多数の賞品は、表彰式で入賞者に贈られました。ご参加くださった皆様、寄付・献品くださった皆様、実行委員の皆様

## 子育てコラム



## こどもの笑顔に出会うために

進路に悩んでいた高校生の頃、小学校の卒業文集を読み返す機会がありました。「大きく、ちがって、そして、愛を込めて」の心をくみ、すべてを愛情で満たして、先生に興味を持って、とだと思いついたことを思い出しました。そこから夢に向けて準備を開始。「子どもが大好き」というだけで、子どもの成長には立ち返ります。子どもたちの笑顔を増やすこと。そしてまた、子どもたちのたくさんの笑顔

気持ちに寄り添い、たくさんの笑顔を増やすことを保育の目標と考えるようになりました。YMCAの研修会で新澤誠治先生は、「子どもたちは園に気持ちを持ってやってくる」と言われ、大人と違って子どもは、登園時に気持ちを切り替えることはなく、家庭での出来事や登園途中のことも全部心に持ってきてくる。子どもの気持ちや学び合い、支え合う関係性の中で、子どもは育っていきます。専門職である保育者として、お互いを尊敬し、保育者としての意見を伝えあい信頼しあう、保育共同体でありたいと思います。

芝浦アイランドこども園 副園長 藤野 恭子

## シリーズ 資料室の窓から(101)

### 『賛育会のはなし』

斉藤 實

本会元副総主事

「創立百年」は「周年記念」の華である。今春、「社会福祉法人賛育会」が創立百年を祝った。学生YMCAの先駆「東京大学YMCA」の会員有志が救済医療組織を立ち上げ「賛育会」と名乗って



百年経ったのである。東大YMCA会員で医師の河田茂が「お産の病院」として育てた賛育会病院が、奉仕領域を広げて迎えた百周年なのである。今は、都内と静岡・長野の両県に病院と特別養護老人施設を擁する職員2000人の「社会福祉法人」となった。東京や横浜など都市で市民が結集したYMCAを「市Y」という。大学や専門学校内で学生が結集したものが「学生YMCA(学Y)」である。東京での市Yと学Yが結ぶ兄弟関係は、組織の初めから登場人物を共有していた。銀座時代草創の東京YMCA運営を担った旧幕臣の「篤志幹事・木村熊二牧師」は、本郷西片町の居宅を「東京大学YMCA発会の場」に提供している。東京YMCA機関誌が冊子「東京青年」であった頃、「東洋内科医院と結核療養所・南湖院」の広告が毎号載った。機関誌刊行資金援助であった。これは、東大YMCA創立者のひとりである賛育会理事の結核医・高田研安院長のYMCA人としての同志愛発露である。彼は東京YMCA会員として、キリスト者医師クラブ「賛育会」をつくり初代会長であった。東大YMCA会員で、草創期から36年間も賛育会病院院長であった河田茂は、東京YMCA江東プールの初代委員として奉仕された。東大YMCA会員で賛育会理事長を務めた徳久俊彦は、今、学校法人東京YMCA学院理事長である。草創のはじめから東京YMCAと東大YMCAと賛育会の人脈は、絶えることなく続いて今に及ぶ。写真の、賛育会創立百年記念出版『賛育会の百年』(全約600頁、今春刊行)は東京YMCA資料室ボランティアで賛育会顧問の斉藤實が書いた。

